

タイトル：ゴージャスお宝鑑定家〜

「う〜ん、ゴージャス！」30

シーン1：剛田質店の朝

（豪華なシャンデリアが輝く店内。店主・剛田が高級なソファに優雅に腰掛け、金縁のティーカップを持っている。白金は掃除をしながら不安そうな顔をしている。）

剛田：（優雅に）「白金くん、今日もこの剛田質店にゴージャスな波が押し寄せ
る予感がするね！」

白金：（モップを握りしめながら）「剛田さん、その波って、一体どこから来るんですか？毎日そんな高級な品が来るわけないと思うんですけど。」

剛田：（ティーカップを傾けながら）「それがゴージャスというものさ、白金くん。ゴージャスたるもの優雅たれ。覚えておくといい。」

（白金がため息をついた瞬間、店の扉が豪快に開く音がする。）

白金：「お客さん？」

剛田：「来たね：ゴージャスの香りがする。」

（剛田は立ち上がり、ゆっくりと扉の方へ向かう。）

シーン②：アマゾンナイト製の野球ボール登場

（店内に入ってきたのは、派手なスーツを着た中年男性・大河内。）

大河内：「おいおい、この店の評判を聞いて来たんだが、ここで鑑定してもらえるのか？」

白金：「いらっしやいませ！どのような品をお持ちですか？」

（大河内はスーツの内ポケットから、小さな黒いボールを取り出す。）

大河内：「これだ。『アマゾンナイト製の野球ボール』。伝説の秘境で手作りされた唯一無二の一品だ！」

剛田：（目を輝かせながら）「うーん、ゴージャス！」

白金：（目を細めてボールを見つめる）
「これが？ただの黒い野球ボールにしか見えませんが。」

剛田：（白金をたしなめながら）「白金くん！君はその品の本質を見抜いていな

い。これはただの野球ボールではない。
ゴージャスの結晶だ！」

白金：「結晶って：具体的にどこがゴージャスなんですか？」

（剛田はボールを持ち、拡大鏡で隅々まで鑑定し始める。）

剛田：「見たまえ、この黒光り：これはアマゾンの神秘を体現している！」

白金：「でも、普通に野球で使えそうですけど？」

剛田：「白金くん、ゴージャスとは実用性ではない。存在そのものが価値なのだ。」

（剛田が突然、熱弁を始める。）

剛田：「アマゾンナイト：それは石言葉で『直感』と『保護』を象徴する。この

ボールを手にする者は、直感力を得て、
守護されるといふ：これ以上にゴージャ
スなことがあるかね？」

白金：「え：そんな石言葉、初めて聞き
ましたけど。」

剛田：「白金くん、知識はゴージャスを
育む肥料だ。もっと学びたまえ。」

シーン③：鑑定額をめぐる攻防

大河内：「で、どうだ？この品、いくらで買取ってくれるんだ？」

剛田：「待ちなさい：ゴージャスな品には相応しい値付けが必要だ。」

（剛田はボールを両手で持ち、店の中央に設置されたスポットライトの下で慎重に眺める。）

剛田：「ふむ：この品の価値は：」

（ドラマチックな間。）

剛田：「300万円と見た！」

白金：（目を見開きながら）「300万円！？ただのボールじゃないですか！」

剛田：「白金くん、君のそのただという言葉が、このボールの価値を曇らせているのだよ。見たまえ、この輝きを！」

大河内：「おお、300万か！だが…400万
でどうだ？」

白金：「えっ？逆に値上げするんです
か？」

剛田：「なんと…この大河内さん、真の
ゴージャス精神を理解している…：うゝ
ん、ゴージャス！」

シーンヤ：実際に使ってみる

（剛田と白金が店の裏手にある小さな庭でキャッチボールをしている。剛田はスーツ姿のまま優雅にボールを受け取るつもりでいるが…。）

白金：「剛田さん、準備はいいですか？」

剛田：「もちろんだとも。ゴージャスたるもの、いつでも準備は万端だ。」

（白金が軽くボールを投げる。剛田は優雅に構えたが、手元が狂い、ボールが指に直撃。）

剛田：「…ふっ、大丈夫だとも。これもまた、ゴージャスの試練だ。」

白金：「剛田さん、痛そうですね！今の音、聞こえました？」

剛田：「いや、何も感じない。ゴージャスたるもの、痛みすら優雅に乗り越えるものだ。」

（剛田は無理やり笑顔を作りながら、次のボールを投げようとする。）

シーン5：エピソード

（翌日。剛田の指が腫れ上がり、見るからに異常な状態に。）

白金：「剛田さん！その指、どう見てもおかしいですよ！病院に行きましょー！」

剛田：「いや：大丈夫だとも。これは：
ゴージャスな腫れだ。」

白金：「ゴージャスとか言ってる場合で
すか！早く病院に行かないと、もっとひ
どくなりますよ！」

剛田：「白金くん：君は心配性だな。し
かし：わかった、そこまで言うなら行く
としよう。」

（白金に一喝され、渋々病院へ向かう剛
田。その姿を見て、白金がつぶやく。）

白金：「ゴージャスもいいけど、健康第
一ですよ：まったく。」

（エンドロールの音楽が流れる中、剛田
と白金が病院に向かう姿で幕が下りる。）

尺割概要

シーン1: 剛田質店の朝 (約10分)

- 剛田と白金の日常的な掛け合い。
- キム 剛田の独特な価値観や優雅な振る舞いを描写。
- 来訪者の予感を匂わせる。

シーン2: アマゾンナイト製の野球ボール登場 (約15分)

- 大河内の登場と品物の紹介。キム 剛田の「ゴージャス鑑定」シーンを細かく描写。
- 石言葉や「ゴージャス哲学」を熱弁するコメディ要素で盛り上げる。

シーン3: 鑑定額をめぐる攻防 (約15分)

- 大河内と剛田の鑑定額交渉。キム 白金のツッコミと剛田のオーバードアクションでテンポを加速。

- 緊張感と笑いを交えながら、最終的な査定額を決定。

シーン4: 実際に使ってみる (約20分)

- 剛田と白金がキャッチボールをするコメディシーン。キョー 剛田の優雅さが災いして突き指する流れをじっくり描写。
- やせ我慢しながら振る舞う剛田の演技に笑いを誘う。

シーン5: エピローグ (約10分)

- 翌日の剛田の指の異常状態を描写。
トホ 白金が一喝し、剛田がしぶしぶ病院へ向かう流れ。
- 健康第一のメッセージをコミカルに締めくくる。

合計尺：約 80 分
